

飯塚市水道事業経営戦略 進捗状況報告書 (令和3年度決算)



令和4年10月

飯 塚 市 企 業 局

目次

1章 飯塚市水道事業経営戦略の概要について	1
1 策定の趣旨	1
1-1 経営戦略策定の背景	1
1-2 計画期間	1
1-3 経営戦略の目的	2
2 経営の基本方針	3
2-1 基本理念〈飯塚市水道事業ビジョン〉	3
2-2 経営戦略の目指すべき方向性	3
3 経営戦略の進捗管理と改善	4
2章 令和3年度の収支状況について（計画値との比較）	5
（1）収益的収支	5
（2）資本的収支	5
3章 目標の進捗状況	5
4章 経営指標の動向について	8
4-1 経営比較分析指標による現状分析	8
4-1-1 経営の健全性・効率性について	8
4-1-2 老朽化の状況について	12
5章 経営の現状と課題について	14
5-1 経営指標の「3つの視点」による現状と課題	14
5-2 全体総括	14

<巻末添付資料>

・投資・財政計画

1 章 飯塚市水道事業経営戦略の概要について

1 策定の趣旨

1-1 経営戦略策定の背景

本市の水道事業は、大正 13 年の創設以来、市勢の急速な発展や多様化する市民のニーズに応えるために、8 期に及び拡張事業により水道普及率は 97% を超え、市民生活や産業活動に欠くことのできないライフラインとなっています。

一方、これまでの水道普及のための「建設・拡張」の時代を経て、これから「維持管理・更新」の時代に移行し、大きく事業環境が変化しているところです。また、給水人口や料金収入の減少、水道施設の更新需要の増大、地震等の災害時対策の整備などの様々な課題を抱え、今後は経営環境がいっそう厳しくなることが想定されています。

しかしながら、現在の経営状況では、維持管理はできても老朽化した施設を更新する財源が不足しています。法定耐用年数を経過した施設や管路は 4 割を超えており、積極的な取組が必要不可欠となっています。

水道施設は利用者が減少しても、利用者が存在する限り、管路を廃止するわけにはいかないため、設備更新は継続的に実施しなければなりません。足元の経営だけを見て更新を先延ばしにすれば、将来、安定した水の供給は難しくなります。

本市では、水道施設の更新や安全な水の供給により、将来にわたって安定的に事業を継続していくため、水道施設の計画的で効率的な更新、組織や事務事業の合理化、施設管理の効率化等の取組を推進し、投資（更新需要）と財源の均衡を図る中長期的な基本計画である「経営戦略」を策定しました。

1-2 計画期間

2021（令和 3）年度 ～ 2030（令和 12）年度（10 年間）

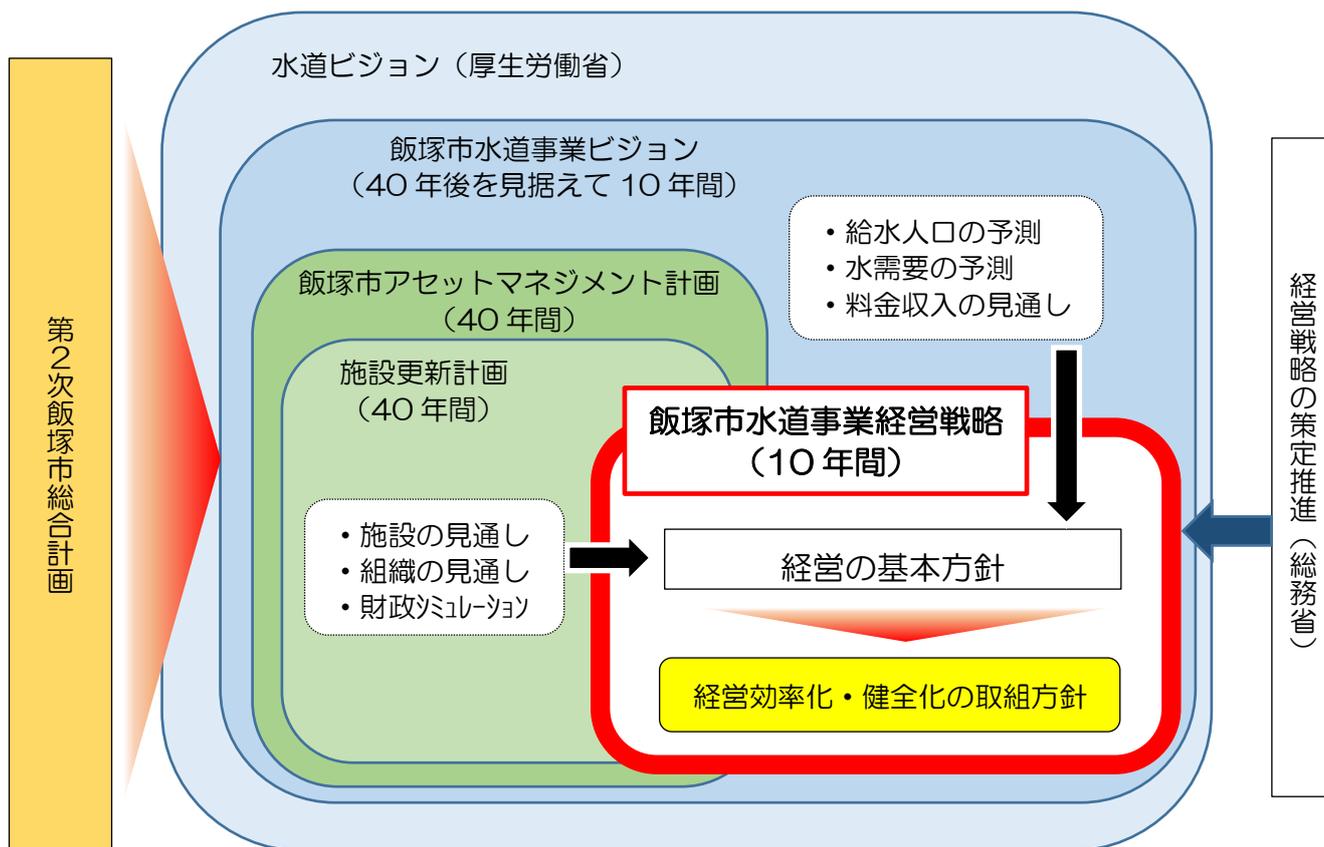
1-3 経営戦略の目的

総務省は、平成26年8月の「公営企業の経営に当たっての留意事項について」において、中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」を策定することを要請しています。

一方、厚生労働省は「新水道ビジョン」を策定し、水道の理想像とそれを具現化するための方策を示しており、本市では、平成31年3月に「飯塚市水道事業ビジョン」を策定しています。

本経営戦略では、これらを受けて、水道事業ビジョンやアセットマネジメント計画等により見込んだ「投資試算」と「財源試算」により収支計画を見込みます。そして、その収支計画の均衡を図るため、投資以外の経費について、効率化・健全化への取組について定めます。

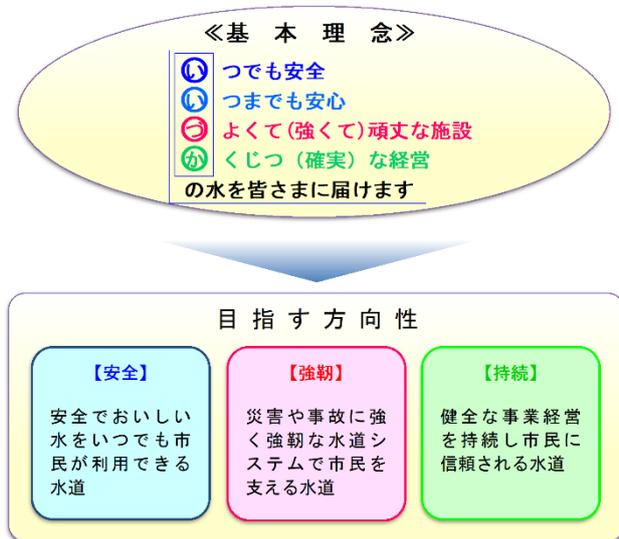
【経営戦略のイメージ】



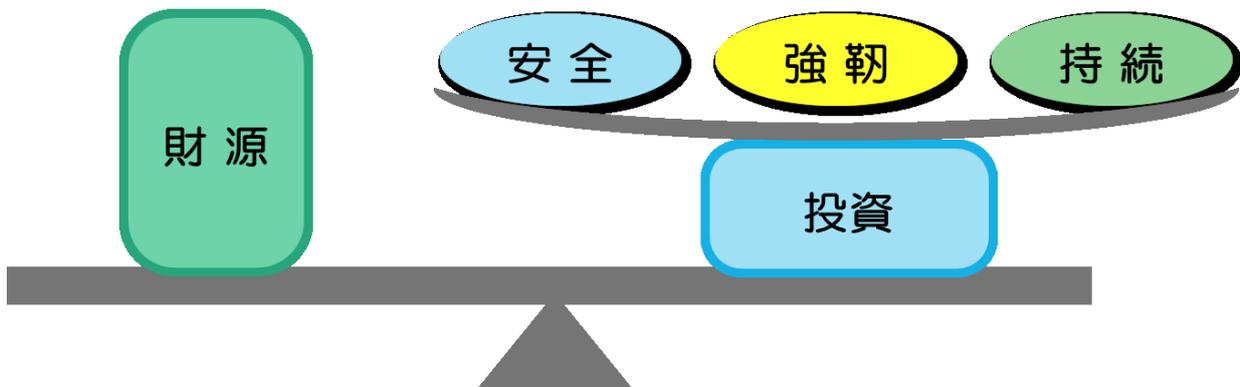
2 経営の基本方針

2-1 基本理念〈飯塚市水道事業ビジョン〉

今後厳しくなる経営環境が見込まれる中、住民生活や社会活動を支えるライフラインとして、安全、強靱で持続可能な水道の構築を目指し、「飯塚市水道事業ビジョン」に掲げる「**い**い**づ**か**の**水**を**皆**さ**ま**に**届**け**ま**す**（**い**つ**で**も**安**全、**い**つ**ま**で**も**安**心**、**強**く**て**頑**丈**な**施**設、**確**実**な**経**営**）」を経営の基本理念とし、中長期的な経営の基本計画とします。



2-2 経営戦略の目指すべき方向性

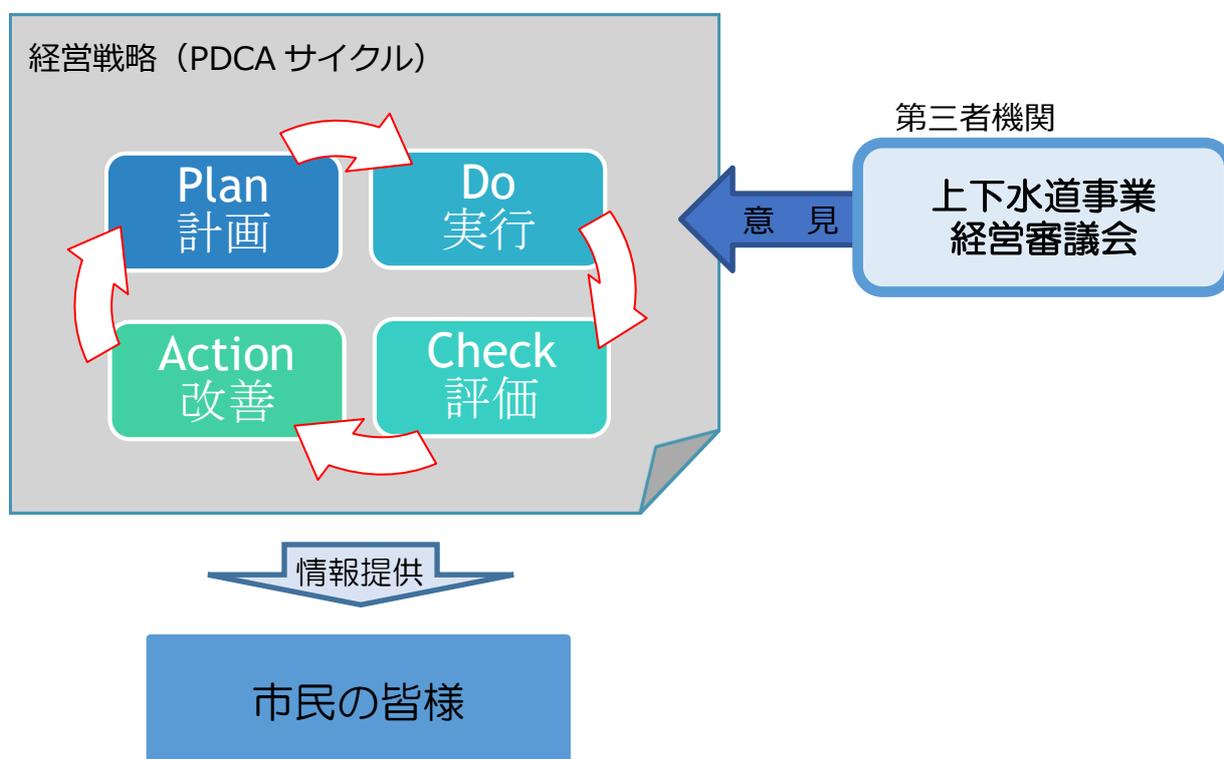


3 経営戦略の進捗管理と改善

本経営戦略は、PDCA サイクル（P：計画、D：実行、C：評価、A：改善）を活用し、本市上下水道事業経営審議会の検証・意見を参考にしながら、計画の実施状況の進捗管理を毎年度行うとともに、定期的（3～5年ごと）に見直しを行います。

また、進捗管理、見直し事項については、市ホームページ等で公表し、市民の皆様への情報提供に努めます。

【PDCAサイクルのイメージ】



2章 令和3年度の収支状況について（計画値との比較）

（1）収益的収支

別紙「投資・財政計画参照」

（2）資本的収支

別紙「投資・財政計画参照」

3章 目標の進捗状況

経営戦略において設定した【安全】【強靱】【持続】を確保するための目標についての進捗管理を行います。

目標項目	料金水準の定期的な見直し（単位：－）						
年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
目標	－	－	改定	状況把握	状況把握・ 検討	検討	検討・精査
実績	－	改定					
目標との差異	－	－					
実施状況	計画：5年後を目途に料金水準が適正かどうかの判断を行う。 R3年度実績：R4年1月 料金改定						
要因・現状分析 （R3）	R3年3月に策定した経営戦略を基に、R4年1月に料金改定を行った。						
今後の方針・ 方策（R3）	予算、決算と経営戦略との比較・分析を行い、料金改定後の状況を把握するとともに料金水準の定期的な見直しを図る。						

目標項目	企業債残高対給水収益比率の向上（単位：％）						
年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
目標	－	－	300%を少し上回る程度				
実績	472.74	474.04					
目標との差異	－	－					
実施状況	計画：300%を少し上回る程度 R3年度実績：474.04%（企業局速報値）						
要因・現状分析 （R3）	現状では多額の地方債残高による影響と人口減少等による給水収益の減少が重なり、高い水準での比率となっている。						
今後の方針・ 方策（R3）	R4年1月からの料金改定による収益改善と計画性を持った地方債の借り入れを行うことにより、目標値の達成を図る。						

目標項目	内部留保資金の確保 (単位：億円)						
年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
目標	—	—	—	—	—	—	15.7
実績	11.5	11.7					
目標との差異	—	—					
実施状況	計画：15.7 億円（短期、R8 年度末） R3 年度実績：11.7 億円						
要因・現状分析 （R3）	R3 年度については資本的支出における執行残の発生などにより、前年度に比べて内部留保資金は増加している。						
今後の方針・ 方策（R3）	給水収益を確保しつつ、収益的支出の執行を適正に行うことにより純利益を確保することで、内部留保資金の増加に寄与する。						

目標項目	老朽管更新延長の確保 (単位：km)						
年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
目標	—	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0
実績	5.85	5.87					
目標との差異	—	0.13					
実施状況	計画：6.0km/年 R3 年度実績：5.87km/年						
要因・現状分析 （R3）	R3 年度については、概ね今後の計画に沿った延長を更新することができたが、労務単価の上昇等が発生すれば、更新延長の確保が難しくなる可能性も考えられる。						
今後の方針・ 方策（R3）	年間 6.0km を目標としながらも、予算や社会情勢等を勘案し、柔軟な対応に努める。						

目標項目	老朽管更新事業の確保 (単位：億円)						
年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
目標	—	6.8	6.8	6.8	6.8	6.8	6.8
実績	5.1	6.0					
目標との差異	—	0.8					
実施状況	計画：6.8 億円／年 R3年度実績：6.0 億円／年						
要因・現状分析 (R3)	老朽管更新延長が概ね計画通りであったことを勘案すると、更新延長あたりの金額が安価であったと言える。これは入札の効果であると考えられる。						
今後の方針・ 方策 (R3)	今後は入札率による執行残も念頭に置きながら予算編成や予算執行を行い、更新延長との関係に注視しつつ、適切に実施していく。						

目標項目	老朽施設整備の更新 (単位：億円)						
年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
目標	—	6.2	6.2	6.2	6.2	6.2	6.2
実績	5.0	3.1					
目標との差異	—	3.1					
実施状況	計画：6.2 億円／年 R3年度実績：3.1 億円／年						
要因・現状分析 (R3)	R3年度については金額ベースでは、計画に対し低い金額で決算を迎えているが、予定の施設の更新は行った。今後は、更新予定施設と事業費とのバランスも考慮し、事業の進捗を行いたいと考えている。						
今後の方針・ 方策 (R3)	今後の施設の大規模更新に向けて、中・小規模の施設の更新については、その必要性を適切に判断し、目標額内での最大限の効果を目指す。						

4章 経営指標の動向について

4-1 経営比較分析指標による現状分析

経営比較分析表（別添資料のとおり）は、経営状況や施設の状況を表す経営指標の、複数年にわたる比較や類似団体（全国の同規模事業者）との比較を行い、経営の現状や課題を把握し、今後の見通しや課題への対応に活用するために作成しているものです。この分析表は全国統一の様式となっており、主に全国の自治体が作成した調査票を国（総務省）が取りまとめて作成した各経営指標と、それを見て各自治体が自己分析を行う分析欄で構成されています。

経営比較分析表に記載している各指標を用いて、本市の水道事業の経営について、評価及び現状分析を行います。

評価の内容は次のとおりです。

【数値の方向性】

- ↑ 増加が望ましい指標
- ↓ 減少が望ましい指標
- () 望ましい基準の数値

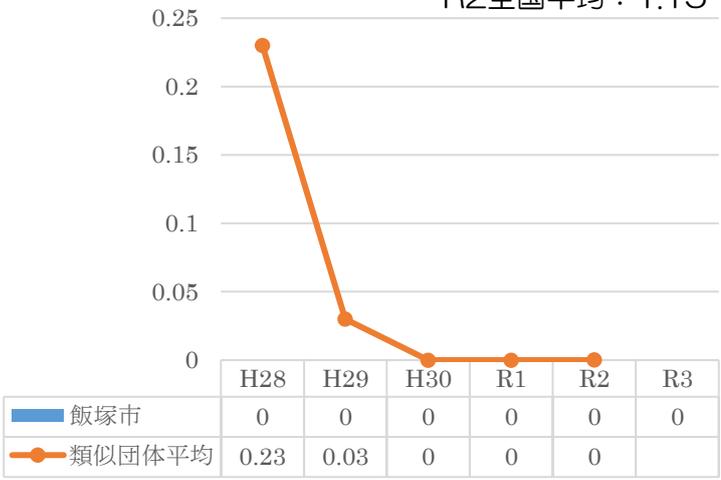
【評価内容】

- A 良好な状況
- B 現状では問題がない
- C 悪化（要改善）

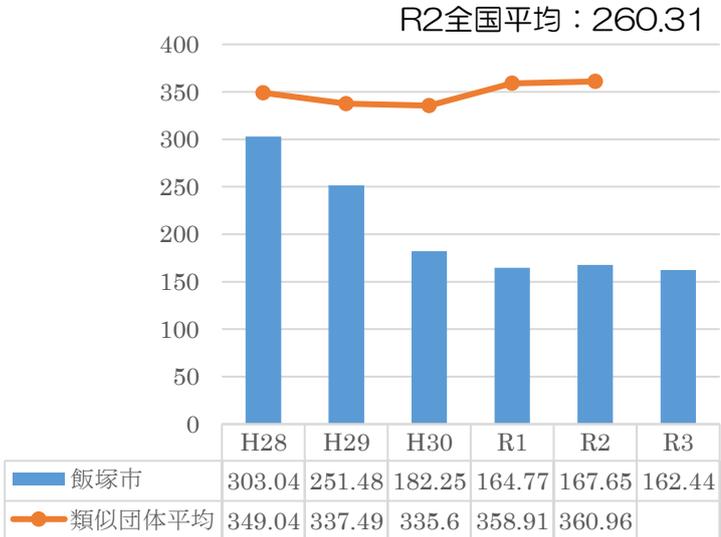
4-1-1 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率（％）																						
【算出式】 $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>飯塚市</td> <td>107.06</td> <td>101.87</td> <td>96.65</td> <td>93.63</td> <td>95.14</td> <td>92.23</td> </tr> <tr> <td>類似団体平均</td> <td>114</td> <td>113.68</td> <td>113.82</td> <td>112.82</td> <td>111.21</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		H28	H29	H30	R1	R2	R3	飯塚市	107.06	101.87	96.65	93.63	95.14	92.23	類似団体平均	114	113.68	113.82	112.82	111.21	
		H28	H29	H30	R1	R2	R3															
飯塚市		107.06	101.87	96.65	93.63	95.14	92.23															
類似団体平均	114	113.68	113.82	112.82	111.21																	
【指標の意味】 当該年度において、給水収益や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表す指標です。																						
【数値の方向性】 ↑ （100 以上）	【評価】 C																					
【本市の分析】 R3年度においては、R2年度より若干悪化しており、その比率は100%を下回る赤字の状況が続いています。R4年1月に料金改定を行いました。今後も人口減少や節水による有収水量の減少が見込まれるため、引き続き経常費用の削減に取り組むなど経営戦略に基づき財政運営を行います。																						

② 累積欠損金比率 (%)	R2全国平均：1.15	
【算出式】	$\frac{\text{当年度未処理欠損金}}{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}} \times 100$	
【指標の意味】	<p>営業活動により生じた損失で、前年度からの繰越利益剰余金等でも補填することができず、複数年度にわたって累積した損失の状況を表す指標です。</p>	
【数値の方向性】	↓ (O)	【評価】 A
【本市の分析】	本市においては発生していません。	

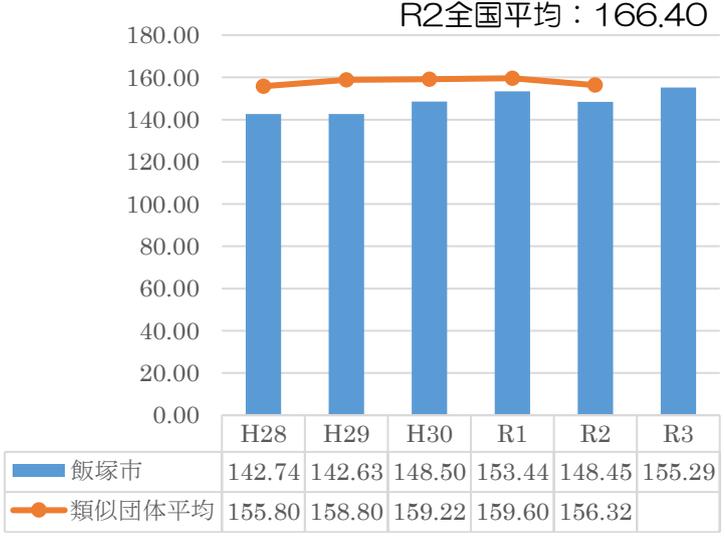


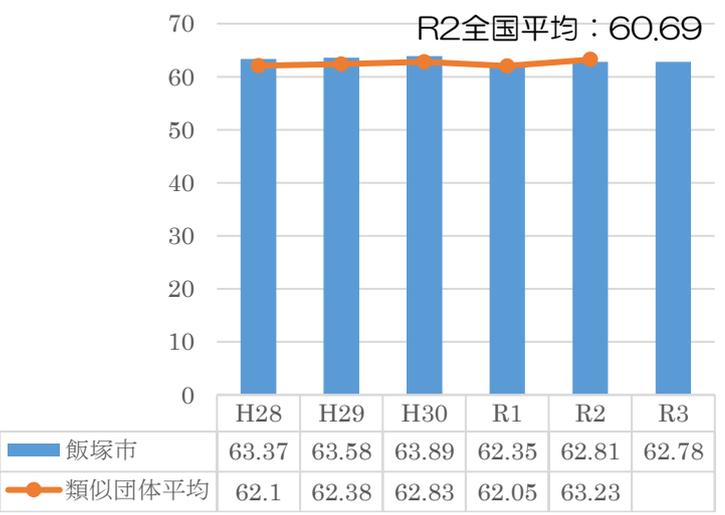
③ 流動比率 (%)	R2全国平均：260.31	
【算出式】	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	
【指標の意味】	<p>短期的な債務に対する支払能力を表す指標です。</p>	
【数値の方向性】	↑ (100 以上)	【評価】 B
【本市の分析】	<p>本市においては、支払能力のある値になっていますが、類似団体と比較して下回っている状況になっており、経営改善を進めていく必要があります。</p> <p>R 4年1月の料金改定により、今後は増加が見込まれています。</p>	

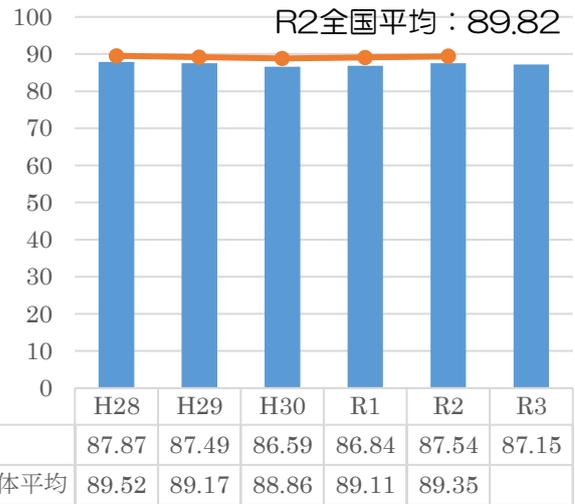


④ 企業債残高対給水収益比率 (%)																							
【算出式】 $\frac{\text{企業債現在高合計}}{\text{給水収益}} \times 100$	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>■ 飯塚市</td> <td>498.11</td> <td>481.06</td> <td>468.41</td> <td>473.11</td> <td>472.74</td> <td>474.04</td> </tr> <tr> <td>● 類似団体平均</td> <td>254.54</td> <td>265.92</td> <td>258.26</td> <td>247.27</td> <td>239.18</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			H28	H29	H30	R1	R2	R3	■ 飯塚市	498.11	481.06	468.41	473.11	472.74	474.04	● 類似団体平均	254.54	265.92	258.26	247.27	239.18	
	H28	H29	H30	R1	R2	R3																	
■ 飯塚市	498.11	481.06	468.41	473.11	472.74	474.04																	
● 類似団体平均	254.54	265.92	258.26	247.27	239.18																		
【指標の意味】 給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標です。																							
【数値の方向性】	↓	【評価】 C																					
【本市の分析】 類似団体の平均と比較して、指標が大きくなっています。これは将来に向けた投資を積極的に行っていることと、給水収益の減少の影響によるものです。R4年1月の料金改定により、今後は収益の確保が図れる見込みとなっておりますが、適正な企業債の借り入れを行うなど、更なる指標の改善に努めていきます。																							

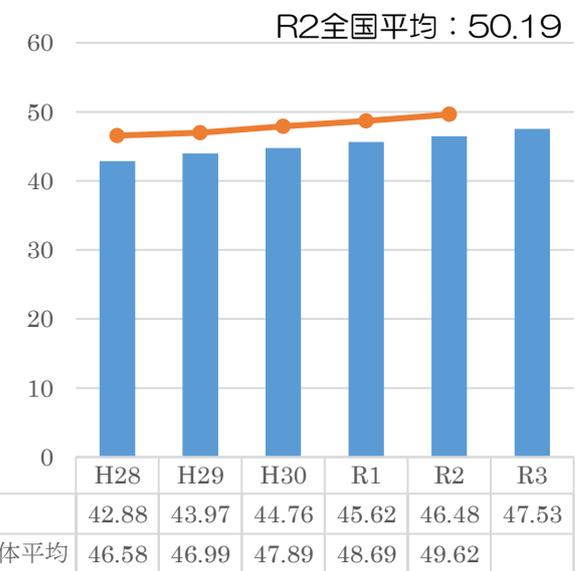
⑤ 料金回収率 (%)																							
【算出式】 $\frac{\text{供給単価}}{\text{給水原価}} \times 100$	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>■ 飯塚市</td> <td>98.88</td> <td>99.03</td> <td>95.24</td> <td>92.05</td> <td>94.28</td> <td>90.55</td> </tr> <tr> <td>● 類似団体平均</td> <td>106.52</td> <td>105.86</td> <td>106.07</td> <td>105.34</td> <td>101.89</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			H28	H29	H30	R1	R2	R3	■ 飯塚市	98.88	99.03	95.24	92.05	94.28	90.55	● 類似団体平均	106.52	105.86	106.07	105.34	101.89	
	H28	H29	H30	R1	R2	R3																	
■ 飯塚市	98.88	99.03	95.24	92.05	94.28	90.55																	
● 類似団体平均	106.52	105.86	106.07	105.34	101.89																		
【指標の意味】 給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表した指標であり、料金水準等を評価することが可能です。																							
【数値の方向性】	↑ (100 以上)	【評価】 C																					
【本市の分析】 本指標は100%を下回っている状況であり、給水に係る費用が給水収益で賄われていないことを示しています。今後は、効率的な事業実施によるコストの縮減などを図り給水原価（コスト）の減少に取り組みつ、R4年1月の料金改定により発生する給水収益の確保を図ることとしています。																							

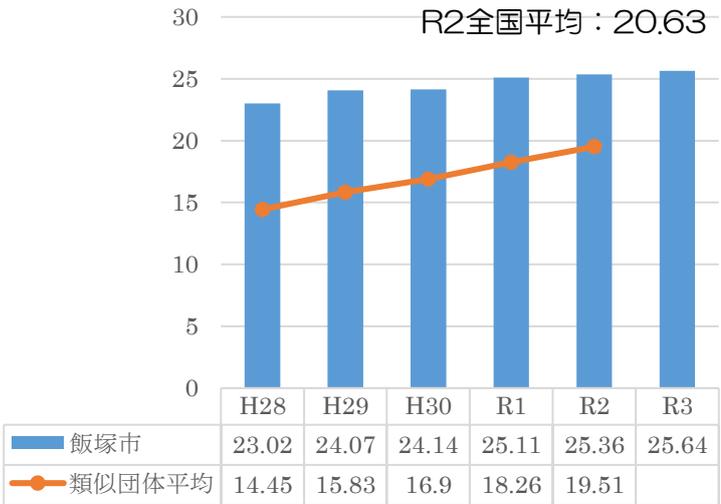
⑥ 給水原価（円）																							
【算出式】 $\frac{\text{経常費用} - \text{受託工事費等} - \text{長期前受金戻入}}{\text{年間総有収水量}}$																							
【指標の意味】 有収水量 1 m ³ 当たりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標です。	<table border="1" data-bbox="703 750 1428 840"> <tr> <td></td> <td>H28</td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td>R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> </tr> <tr> <td>■ 飯塚市</td> <td>142.74</td> <td>142.63</td> <td>148.50</td> <td>153.44</td> <td>148.45</td> <td>155.29</td> </tr> <tr> <td>● 類似団体平均</td> <td>155.80</td> <td>158.80</td> <td>159.22</td> <td>159.60</td> <td>156.32</td> <td></td> </tr> </table>			H28	H29	H30	R1	R2	R3	■ 飯塚市	142.74	142.63	148.50	153.44	148.45	155.29	● 類似団体平均	155.80	158.80	159.22	159.60	156.32	
	H28	H29	H30	R1	R2	R3																	
■ 飯塚市	142.74	142.63	148.50	153.44	148.45	155.29																	
● 類似団体平均	155.80	158.80	159.22	159.60	156.32																		
【数値の方向性】	↓	【評価】 A																					
【本市の分析】 本市においては、類似団体と比較して下回っており、安価に給水できている状況ですが、近年物価の上昇等により増加傾向にあります。今後は、物価の上昇によるコスト増の影響を最小限に抑えることができるよう、コスト縮減策に取り組んでいきます。																							

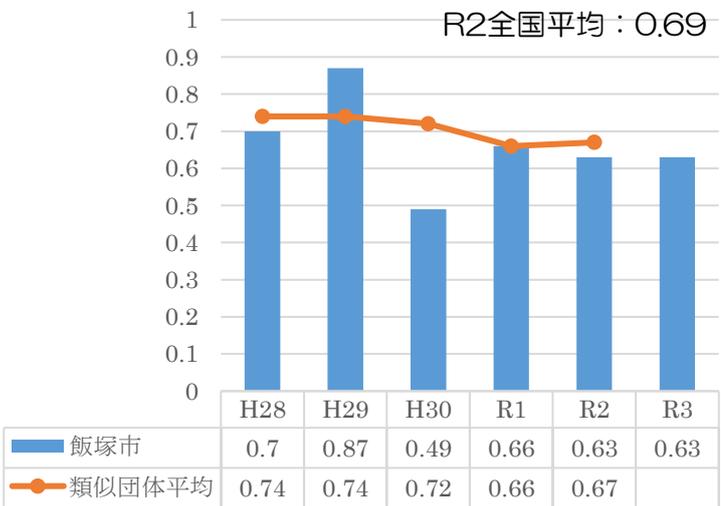
⑦ 施設利用率（％）																							
【算出式】 $\frac{\text{一日平均配水量}}{\text{一日配水能力}} \times 100$																							
【指標の意味】 一日配水能力に対する一日平均配水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する指標です。	<table border="1" data-bbox="703 1635 1428 1758"> <tr> <td></td> <td>H28</td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td>R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> </tr> <tr> <td>■ 飯塚市</td> <td>63.37</td> <td>63.58</td> <td>63.89</td> <td>62.35</td> <td>62.81</td> <td>62.78</td> </tr> <tr> <td>● 類似団体平均</td> <td>62.1</td> <td>62.38</td> <td>62.83</td> <td>62.05</td> <td>63.23</td> <td></td> </tr> </table>			H28	H29	H30	R1	R2	R3	■ 飯塚市	63.37	63.58	63.89	62.35	62.81	62.78	● 類似団体平均	62.1	62.38	62.83	62.05	63.23	
	H28	H29	H30	R1	R2	R3																	
■ 飯塚市	63.37	63.58	63.89	62.35	62.81	62.78																	
● 類似団体平均	62.1	62.38	62.83	62.05	63.23																		
【数値の方向性】	↑	【評価】 B																					
【本市の分析】 本市は、1市4町が合併しており施設や遊休資産が多く、施設利用率については平均値を下回っていましたが、施設の統廃合等の結果、近年は平均並みの状況になっております。今後も施設規模の適正化を行うなど、施設の稼働状況の改善に取り組んでいきます。																							

㊸ 有収率 (%)	 <table border="1" data-bbox="694 660 1412 784"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>■ 飯塚市</td> <td>87.87</td> <td>87.49</td> <td>86.59</td> <td>86.84</td> <td>87.54</td> <td>87.15</td> </tr> <tr> <td>● 類似団体平均</td> <td>89.52</td> <td>89.17</td> <td>88.86</td> <td>89.11</td> <td>89.35</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			H28	H29	H30	R1	R2	R3	■ 飯塚市	87.87	87.49	86.59	86.84	87.54	87.15	● 類似団体平均	89.52	89.17	88.86	89.11	89.35	
			H28	H29	H30	R1	R2	R3															
■ 飯塚市			87.87	87.49	86.59	86.84	87.54	87.15															
● 類似団体平均	89.52	89.17	88.86	89.11	89.35																		
【算出式】 $\frac{\text{年間総有収水量}}{\text{年間総配水量}} \times 100$																							
【指標の意味】 施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標です。																							
【数値の方向性】	↑	【評価】 C																					
【本市の分析】 本市においては、類似団体を下回っている状況となっております。これは、配水量のうち、漏水等により収益につながらない水量が多くなっていることによるものと考えています。																							

4-1-2 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率 (%)	 <table border="1" data-bbox="694 1646 1412 1769"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>■ 飯塚市</td> <td>42.88</td> <td>43.97</td> <td>44.76</td> <td>45.62</td> <td>46.48</td> <td>47.53</td> </tr> <tr> <td>● 類似団体平均</td> <td>46.58</td> <td>46.99</td> <td>47.89</td> <td>48.69</td> <td>49.62</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			H28	H29	H30	R1	R2	R3	■ 飯塚市	42.88	43.97	44.76	45.62	46.48	47.53	● 類似団体平均	46.58	46.99	47.89	48.69	49.62	
			H28	H29	H30	R1	R2	R3															
■ 飯塚市			42.88	43.97	44.76	45.62	46.48	47.53															
● 類似団体平均	46.58	46.99	47.89	48.69	49.62																		
【算出式】 $\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$																							
【指標の意味】 有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標で、資産の老朽化度合を示しています。																							
【数値の方向性】	↓	【評価】 A																					
【本市の分析】 本市においては、施設の老朽化が進んでおり、今後は施設の大規模更新等も見込まれるため、経営戦略に基づき、適正な投資を行っていく必要があります。																							

② 管路経年化率 (%)	 <table border="1" data-bbox="699 660 1420 784"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>■ 飯塚市</td> <td>23.02</td> <td>24.07</td> <td>24.14</td> <td>25.11</td> <td>25.36</td> <td>25.64</td> </tr> <tr> <td>● 類似団体平均</td> <td>14.45</td> <td>15.83</td> <td>16.9</td> <td>18.26</td> <td>19.51</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			H28	H29	H30	R1	R2	R3	■ 飯塚市	23.02	24.07	24.14	25.11	25.36	25.64	● 類似団体平均	14.45	15.83	16.9	18.26	19.51	
			H28	H29	H30	R1	R2	R3															
■ 飯塚市	23.02	24.07	24.14	25.11	25.36	25.64																	
● 類似団体平均	14.45	15.83	16.9	18.26	19.51																		
【算出式】 $\frac{\text{法定耐用年数を経過した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$																							
【指標の意味】 法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す指標で、管路の老朽化割合を示しています。																							
【数値の方向性】	↓	【評価】 C																					
【本市の分析】 本市は、法定耐用年数を経過した本管管路を数多く保有し、管路更新の重要性が増しています。老朽化は年々進んでいるため、引き続き計画的な管路更新に努めていきます。																							

③ 管路更新率 (%)	 <table border="1" data-bbox="699 1590 1420 1713"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>■ 飯塚市</td> <td>0.7</td> <td>0.87</td> <td>0.49</td> <td>0.66</td> <td>0.63</td> <td>0.63</td> </tr> <tr> <td>● 類似団体平均</td> <td>0.74</td> <td>0.74</td> <td>0.72</td> <td>0.66</td> <td>0.67</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			H28	H29	H30	R1	R2	R3	■ 飯塚市	0.7	0.87	0.49	0.66	0.63	0.63	● 類似団体平均	0.74	0.74	0.72	0.66	0.67	
			H28	H29	H30	R1	R2	R3															
■ 飯塚市	0.7	0.87	0.49	0.66	0.63	0.63																	
● 類似団体平均	0.74	0.74	0.72	0.66	0.67																		
【算出式】 $\frac{\text{当該年度に更新した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$																							
【指標の意味】 当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標で、管路の更新ペースや状況を把握できる。																							
【数値の方向性】	↑	【評価】 C																					
【本市の分析】 年度でばらつきはあるものの、おおむね類似団体と同程度の更新を行っています。経営戦略では管路更新延長についても目標を設定しており、毎年度計画通り管路の更新を実施していくこととしております。																							

5章 経営の現状と課題について

5-1 経営指標の「3つの視点」による現状と課題

4-1-2の指標のとおり管路や施設の老朽化が進んでおり【安全】・【強靱】な施設にするために計画通りに施設の更新を行っていく必要があります。

また料金回収率については100%を下回っており、健全な事業経営を【持続】するためにコストの削減や給水収益の確保に努める必要があります。

5-2 全体総括

公営企業は、経営状況及び料金対象経費の把握が不可欠であり、経営の合理化、料金水準の適正化等による独立採算の原則に基づく経営が求められています。

飯塚市水道事業においては、給水戸数に対して給水面積が広いことから、保有する施設が多く、老朽化割合が高い状況にあります。また、R4年1月には20年ぶりの料金改定を行いました。今後も人口減少や節水による有収水量の減少が見込まれます。

今後の課題として、施設の効率性、管路更新、収益性が挙げられ、各指標の結果を基に、水道事業の安定的な経営に向けて、計画的な事業運営をしていく必要があると考えています。

【各指標の評価一覧表】

指標名	数値の方向性	R3 決算値 (企業局速報値)		評価
		飯塚市	類似団体平均 (R2)	
1. 経営の健全性・効率性について				
① 経常収支比率 (%)	↑	92.23	111.21	C
② 累積欠損金比率 (%)	↓	0.00	0.00	A
③ 流動比率 (%)	↑	162.44	360.96	B
④ 企業債残高対給水収益比率 (%)	↓	474.04	239.18	C
⑤ 料金回収率 (%)	↑	90.55	101.89	C
⑥ 給水原価 (円)	↓	155.29	156.32	A
⑦ 施設利用率 (%)	↑	62.78	63.23	B
⑧ 有収率 (%)	↑	87.15	89.35	C
2. 老朽化の状況について				
① 有形固定資産減価償却率 (%)	↓	47.53	49.62	A
② 管路経年化率 (%)	↓	25.64	19.51	C
③ 管路更新率 (%)	↑	0.63	0.67	C

【数値の方向性】

- ↑ 増加が望ましい指標
- ↓ 減少が望ましい指標
- () 望ましい基準の数値

【評価内容】

- A 良好な状況
- B 現状では問題がない
- C 悪化（要改善）

投資・財政計画
(収支計画)

(単位:千円)

区 分	年 度	令和元年度 (決算)	令和2年度			令和3年度			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
			(決算) 見込	(決算)	増 減	(計画)	(決算)	増 減									
資本的収入	1. 企業債	358,800	550,000	489,500	△ 60,500	500,000	474,600	△ 25,400	522,000	522,000	522,000	522,000	522,000	522,000	522,000	522,000	522,000
	うち資本費平準化債																
	2. 他会計出資金	358,800	350,000	350,000		300,000	300,000										
	3. 他会計補助金	19,512	15,900	15,908	8	15,312	16,150	838	15,631	15,956	16,288	16,627	16,973	17,326	17,686	18,054	18,430
	4. 他会計負担金			18,947	18,947		11,117	11,117									
	5. 他会計借入金																
	6. 国(都道府県)補助金	2,477				24,673	22,430	△ 2,243	37,010		38,286	38,286	35,427	37,333	39,048	40,192	40,192
	7. 固定資産売却代金	2,501	1		△ 1		1,362	1,362									
	8. 工事負担金	8,030	23,120	5,631	△ 17,489	27,007	1,201	△ 25,806	27,007	27,007	27,007	27,007	27,007	27,007	27,007	27,007	27,007
	9. その他	37,593	46,688	53,325	6,637	109,359	54,728	△ 54,631	76,801	37,883	168,169	168,168	370,158	235,499	235,500	235,500	235,500
計 (A)	787,713	985,709	933,311	△ 52,398	976,351	881,588	△ 94,763	678,449	602,846	771,750	772,088	971,565	839,165	841,241	842,753	843,129	
(A)のうち翌年度へ繰り越される支出の財源充当額 (B)																	
純計 (A)-(B) (C)	787,713	985,709	933,311	△ 52,398	976,351	881,588	△ 94,763	678,449	602,846	771,750	772,088	971,565	839,165	841,241	842,753	843,129	
資本的支出	1. 建設改良費	1,125,666	1,299,697	1,175,079	△ 124,618	1,253,425	1,256,938	3,513	1,289,686	1,256,236	1,373,794	1,373,794	1,555,585	1,434,391	1,450,000	1,450,000	1,450,000
	うち職員給与費	65,601	78,098	76,143	△ 1,955	78,100	67,503	△ 10,597	78,100	78,100	78,100	78,100	78,100	78,100	78,100	78,100	78,100
	2. 企業債償還金	443,102	467,346	467,345	△ 1	497,521	497,520	△ 1	508,602	516,361	509,646	528,298	537,768	551,424	560,503	562,961	562,519
	3. 他会計長期借入返還金																
	4. 他会計への支出金																
5. その他	26,426	27,112	27,165	53	58,830	31,248	△ 27,582	85,269	88,304	88,145	88,491	88,916	66,346	66,400	66,400	66,400	
計 (D)	1,595,194	1,794,155	1,669,589	△ 124,566	1,809,776	1,785,706	△ 24,070	1,883,557	1,860,901	1,971,585	1,990,583	2,182,269	2,052,161	2,076,903	2,079,361	2,078,919	
資本的収入額が資本的支出額に不足する額 (D)-(C) (E)	807,481	808,446	736,278	△ 72,168	833,425	904,118	70,693	1,205,108	1,258,055	1,199,835	1,218,495	1,210,704	1,212,996	1,235,662	1,236,608	1,235,790	
補填財源	1. 損益勘定留保資金	1,707,221	1,830,898	1,795,901	△ 34,997	1,966,782	1,975,897	9,115	2,115,643	1,919,925	2,200,489	2,355,752	2,455,961	2,556,559	2,638,625	2,854,002	3,066,207
	2. 利益剰余金処分額								480,068	303,246	252,082	240,492	191,915	311,180	282,579	240,442	
	3. 繰越工事資金																
	4. その他	90,865	106,607	93,276	△ 13,331	113,805	102,076	△ 11,729	108,610	115,703	100,378	100,378	82,275	94,344	100,000	100,000	100,000
計 (F)	1,798,086	1,937,505	1,889,177	△ 48,328	2,080,587	2,077,973	△ 2,614	2,224,253	2,515,696	2,604,113	2,708,212	2,778,728	2,842,818	3,049,805	3,236,581	3,406,649	
補填財源不足額 (E)-(F) (G)	△ 990,605	△ 1,129,059	△ 1,152,899	△ 23,840	△ 1,247,162	△ 1,173,855	73,307	△ 1,019,145	△ 1,257,641	△ 1,404,278	△ 1,489,717	△ 1,568,024	△ 1,629,822	△ 1,814,143	△ 1,999,973	△ 2,170,859	
他会計借入金残高 (H)																	
企業債残高 (H)	8,302,721	8,385,377	8,324,876	△ 60,501	8,409,856	8,301,956	△ 107,900	8,423,255	8,428,894	8,441,248	8,432,320	8,414,632	8,385,016	8,346,513	8,305,552	8,265,034	

○他会計繰入金 (単位:千円)

区 分	年 度	令和元年度 (決算)	令和2年度			令和3年度			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
			(決算) 見込	(決算)	増 減	(計画)	(決算)	増 減									
収益的収支分		7,551	5,834	7,183	1,349	4,586	16,559	11,973	4,267	3,942	3,610	3,271	2,925	2,572	2,211	1,843	1,468
	うち基準内繰入金	7,551	5,834	7,183	1,349	4,586	5,543	957	4,267	3,942	3,610	3,271	2,925	2,572	2,211	1,843	1,468
	うち基準外繰入金						11,016	11,016									
資本的収支分		385,833	384,340	384,855	515	333,752	327,267	△ 6,485	34,071	34,396	34,728	35,067	35,413	35,766	36,126	36,494	36,870
	うち基準内繰入金	31,833	34,340	33,942	△ 398	33,752	27,267	△ 6,485	34,071	34,396	34,728	35,067	35,413	35,766	36,126	36,494	36,870
	うち基準外繰入金	354,000	350,000	350,913	913	300,000	300,000										
合 計		393,384	390,174	392,038	1,864	338,338	343,826	5,488	38,338	38,338	38,338	38,338	38,338	38,338	38,337	38,337	38,338